AgileWorks R3

多言語対応ガイド

R3.3 第 1 版(2026/07/15)

ATLED

目次／索引

1. はじめに 4
1.1. 前提条件 4
2. 対応範囲 5
2.1. 言語の対応 5
2.2. タイムゾーンは未対応 5
2.3. ユーザーサイトの言語切り替えイメージ 6
2.4. ドキュメントビューアの言語切り替えイメージ 6
2.5. ユーザーサイト各種メッセージの言語切り替えイメージ 7
2.6. ガジェットの言語切り替えイメージ 7
3. ユーザーサイトの言語切り替え 8
3.1. ログイン画面 8
3.2. 言語設定 9
4. 管理サイトの多言語設定 10
4.1. 多言語関係の設定一覧 10
4.2. 言語設定 11
4.3. ログアウト文言の設定 11
4.4. メール文字コード設定 12
4.5. メールテンプレート設定 13
4.6. 共通一覧ビュー設定 14
4.7. 件名設定 15
4.8. 拡張項目設定 16
4.9. CSV 文字コード設定 17
4.10. コンテンツ設定 18
4.11. マスタ上の名称に関する設定 19
5. ワークフロー設定のポイント 21
5.1. ワークフロー上、異なる言語の利用者が混在する 21
フォームの設定 22
回付ルールの設定 22
公開フォルダの設定 23
6. 注意事項 24
6.1. 各サーバーのシステムロケールとタイムゾーン 24
Linux OS の場合 24
Windows OS の場合 24
6.2. フォントの問題 25
Web ブラウザ上にマルチバイト文字が表示されない 25
PDF にマルチバイト文字が表示されない 26
フォームへのフォント追加と埋め込み 27
6.3. 日付書式・タイムゾーン 27
6.4. JavaScript 開発 28
6.5. SDK によるアドオン開発 28

◆ 改版履歴

版数	年月日	改版内容
第 1 版	2026 年 07 月 15 日	第 1 版作成

1. はじめに

1.1. 前提条件

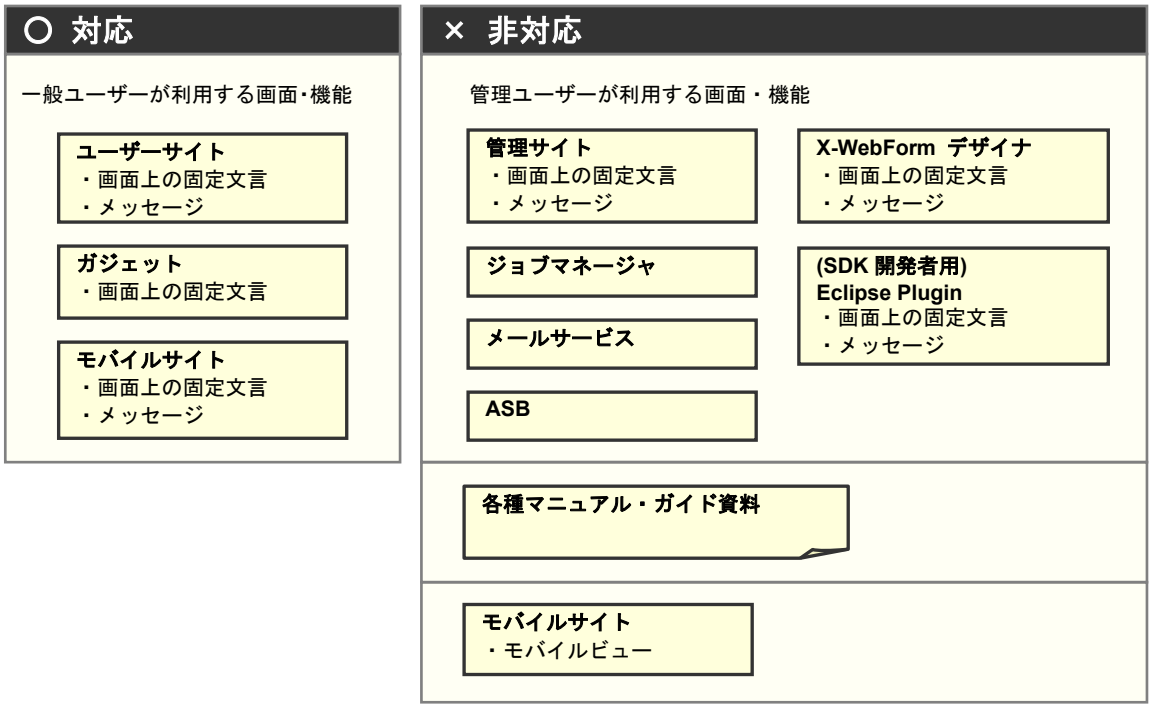
No	項目	説明
1.	サーバーのシステムロケール	AgileWorks を稼動させる各種サーバーは、 ・システムロケールを日本語（日本） ・タイムゾーンを日本語タイムゾーン に設定してください。 ※ 詳しい説明は「各サーバーのシステムロケールとタイムゾーン」章を参照。
2.	対応言語	日本語 英語（English） 中文（簡体字） 中文（繁体字）
3.	対応範囲 / 非対応範囲	「対応範囲」章を参照。
4.	クライアント環境	別紙「Aw00-動作環境とモジュール構成.pdf」を参照。
5.	製品サポートセンターへのお問合せ	日本語文面によるサポートのみ受け付けております。

2. 対応範囲

本マニュアル執筆時点での多言語対応範囲について説明します。

2.1. 言語の対応

一般ユーザーが利用する画面・機能については、言語切り替え機能による多言語対応を可能としていますが、
管理ユーザーが利用する画面・機能・ガイド資料群については日本語のみの対応です。
具体的な対応・非対応範囲については、以下の図を確認してください。



2.2. タイムゾーンは未対応

本書執筆時点の AgileWorks では、タイムゾーンは未対応となります。
そのため、異なるタイムゾーンに属する拠点間での運用は、日本時間による日付と時間表示となります。
（各種適用期間の切り替えも日本時間 0 時 00 分による切り替えとなります）

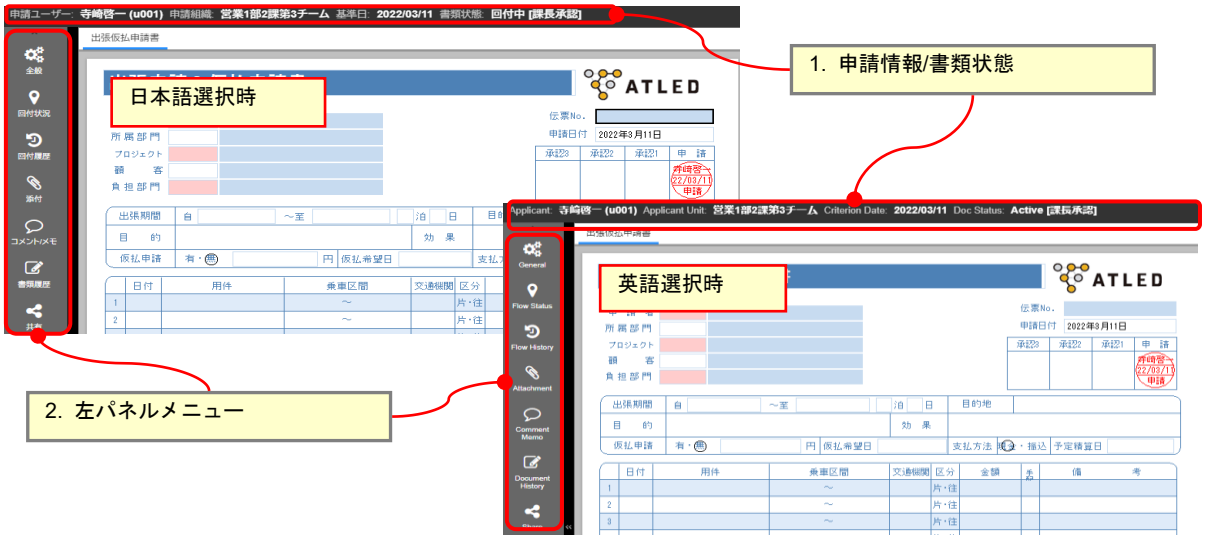
詳しい説明は「日付書式・タイムゾーン」章を参照してください。

2.3. ユーザーサイトの言語切り替えイメージ



No	項目	説明
1.	メニュー、固定文言等	ユーザーサイト上部メニューは、ユーザーごとの言語設定に応じて切り替わります。
2.	ログインユーザー名称	ユーザーサイトに表示されるログインユーザー名称は、 ユーザーごとの言語設定に合った「ローカル名称」が管理サイトで設定されていれば、「ローカル名称」で表示されますが、「ローカル名称」が設定されていない場合には、「ユーザー名称」（グローバルな名称）のまま表示されます。 ※ 設定方法は、「ユーザー名称の設定」章を参照
3.	ログアウトの文言	管理サイト[サイト管理] – [サイト共通設定] – [ログイン認証設定]画面から言語ごとに文言設定ができます。 ※ 設定方法は、「ログアウト文言の設定」章を参照
4.	共通ビュー	管理サイト[サイト管理] – [サイト共通設定] – [共通一覧ビュー]画面から言語ごとに列名の文言設定ができます。 ※ 設定方法は、「共通一覧ビュー設定」章を参照

2.4. ドキュメントビューアの言語切り替えイメージ

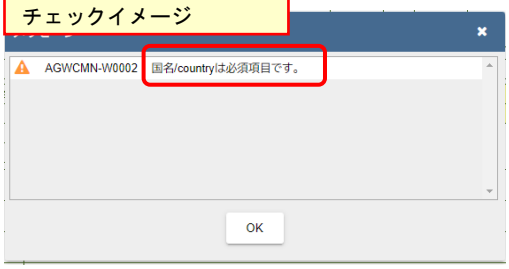


No	項目	説明
1.	申請情報/書類状態	申請情報/書類状態の各ラベルは、ユーザーごとの言語設定に応じて切り替わります。 表示される内容はそれぞれ以下の形で設定されます。 [申請ユーザー・申請組織] ユーザーごとの言語設定に合った「ローカル名称」が管理サイトで設定されていれば、「ローカル名称」で表示されますが、「ローカル名称」が設定されていない場合には、「名称」（グローバルな名称）が表示されます。 [基準日] yyyy/MM/dd 形式固定（「日付書式・タイムゾーン」参照） [書類状態] 書類状態は（下書き/回付中、等）、ユーザーごとの言語設定に応じて切り替わります。 現在ステップ名は、回付ルールで設定した文言が表示されます。
2.	左パネルメニュー	ドキュメントビューア左パネルメニューは、ユーザーごとの言語設定に応じて切り替わります。

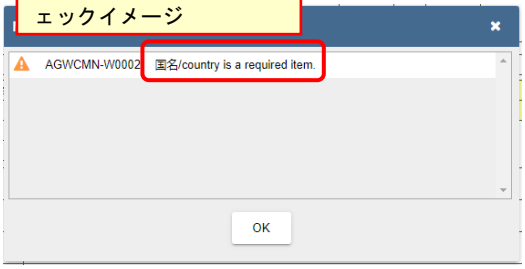
2.5. ユーザーサイト各種メッセージの言語切り替えイメージ

ユーザーサイトで表示される各種メッセージは、ユーザー毎の言語設定に応じて切り替わります。
但し、JavaScript で固有で表示する文言は言語設定に応じて自動的に切り替わらない為、必要に応じて言語毎に用意します。（「JavaScript 開発」参照）

日本語選択時の必須チェックイメージ



英語選択時の必須チェックイメージ



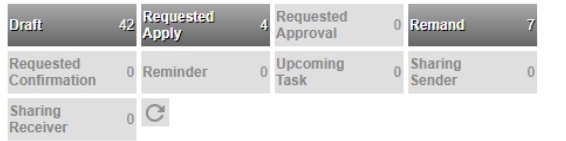
2.6. ガジェットの言語切り替えイメージ

ガジェットは、ユーザー毎の言語設定に応じて切り替わります。

日本語選択時の件数ガジェット



英語選択時の件数ガジェット



3. ユーザーサイトの言語切り替え

多言語対応に関係するユーザーサイト側の画面・機能について説明します。

3.1. ログイン画面

製品が提供する標準ログイン画面では、URL に言語コードのクエリパラメータを付与することで、ログイン画面初期表示時の言語を指定することができます。

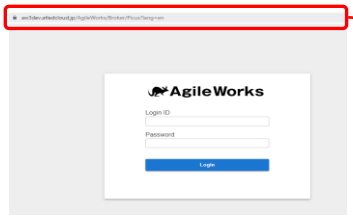
■ 言語コードのクエリパラメータを指定した URL

http://<Server>/AgileWorks/Broker/Picus?aw.lang=＜言語コード＞

言語	言語コード
日本語	ja
英語	en
中文（簡体字）	zh_CN
中文（繁体字）	zh_TW

例）ログイン画面の初期表示言語を English（英語）とする場合、言語コードに en を指定します。

http://<Server>/AgileWorks/Broker/Picus?aw.lang=en



クエリパラメータ aw.lang=<言語コード>を指定することで初期表示時のロケールが決定します。

■ 言語コードのクエリパラメータを指定しない URL

http://<Server>/AgileWorks/Broker/Picus

クエリパラメータ「lang」が指定されていない場合、初期表示言語は以下の優先順位で決定されます。

1. Web ブラウザの言語設定（※ 後述参照）により付与される HTTP ヘッダーの「AcceptLanguage」を読み取り、優先言語を初期表示時のロケールとします。
2. 何らかの理由で HTTP ヘッダーの「AcceptLanguage」を読み取れない場合や、AgileWorks が用意する言語が存在しない場合は、既定の言語が採用されます。
   (既定の言語は、管理サイト[サイト管理] – [サイト共通設定] – [言語]画面から指定します)

Web ブラウザの言語設定について

■ Internet Explorer の場合
メニューバー[ツール] – [インターネットオプション]内の[言語]から言語の優先順位を設定します。

■ Firefox の場合
[オプション]内の[コンテンツ] – [言語設定]から言語の優先順位を設定します。

■ Google Chrome の場合
[設定]内の詳細設定[言語]から言語の優先順位を設定します。

■ Microsoft Edge の場合
ブラウザ上の設定ではなく、OS の言語設定が採用されます。

ログイン画面の言語を指定することにより、ログイン失敗時のメッセージが指定した言語で表示されます。





3.2. 言語設定

各ユーザーが利用する言語設定は、ユーザーサイトから指定することができます。
（管理ユーザーにより、管理サイトから各ユーザーの利用言語を初期設定しておくこともできます）

▼ ユーザーサイト[設定]-[言語設定]



表示言語を選択し、[保存]をクリックすると画面がリロードし、[仕事]画面に遷移します。

注意事項
同じブラウザセッション内の別ウィンドウ(タブ)で AgileWorks を複数起動している場合、あるウィンドウで言語設定を変更しても、別ウィンドウ(タブ)の言語設定は自動的にリロードして切り替わりません。
この場合、一旦該当ウィンドウ(タブ)を閉じて再度立ち上げてください。

4. 管理サイトの多言語設定

多言語対応に関係する管理サイト側の設定機能について説明します。

4.1. 多言語関係の設定一覧

▼ システム全体設定

大メニュー	設定内容	説明
サイト管理	言語設定	利用する言語を設定します。 ※「言語設定」を参照
	ログアウト文言の設定 （ログイン認証設定）	言語別にユーザーサイト右上の「ログアウト」リンク文言を設定します。 ※「ログアウト文言の設定」を参照
	メール文字コード設定	言語別にメール文字コードを設定します。 ※「メール文字コード設定」を参照
	メールテンプレート設定	言語別にメールテンプレートを設定します。 ※「メールテンプレート設定」を参照
	共通一覧ビュー設定	言語別に共通一覧ビューの見出しを設定します。 ※「共通一覧ビュー設定」を参照
	件名項目設定	言語別に件名項目の名称を設定します。 ※「件名設定」を参照
	拡張項目設定	言語別にユーザー/組織の拡張項目のラベルを設定します。 ※「拡張項目設定」を参照
	CSV 文字コード設定	書類ビューで設定した CSV 出力実行時にダウンロードされるファイル文字コードを設定します。 ※「CSV 文字コード設定」を参照
	コンテンツ設定	ユーザーサイトのコンテンツ（仕事/書類作成/検索）のラベルを変更します。 ※「コンテンツ設定」を参照

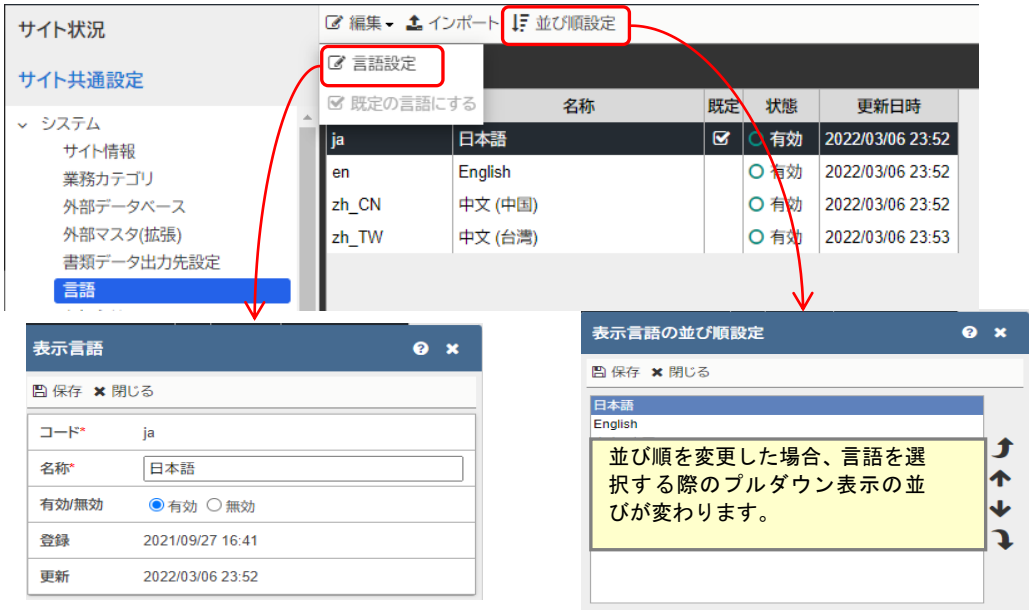
▼ マスタ上の名称に関する設定

大メニュー	設定内容	説明
アカウント管理	ユーザー名称	ユーザー、組織の「名称」設定は、各ユーザーの利用言語設定に依存しないグローバルな名称（基準言語での名称）に加えて、各ユーザーの言語設定により切り替わる「ローカル名称」が設定できます。 ※「マスタ上の名称に関する設定」を参照
組織管理	組織名称	

4.2.　言語設定

言語の有効/無効を切り替えて、利用する言語を設定します。

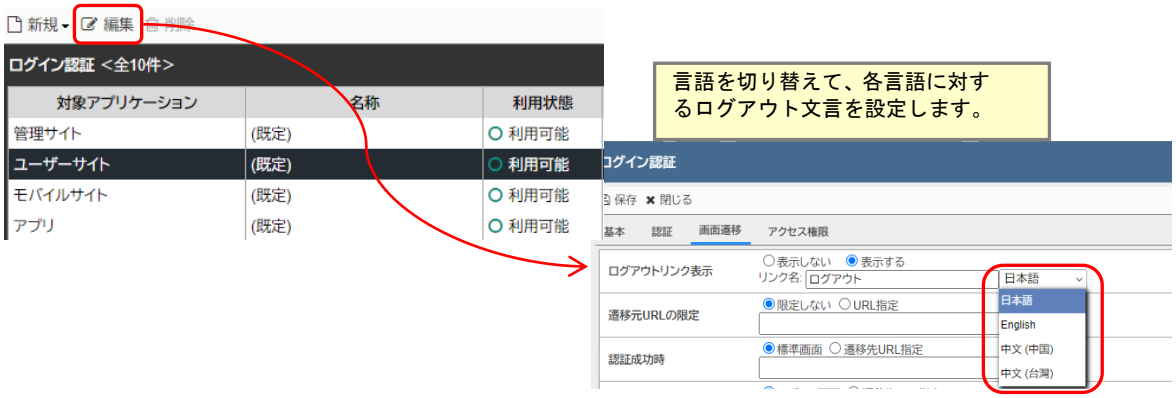
また、既定となる言語の切り替えができますが、これは
・回付ルール作成時のデフォルト言語
・ユーザー作成時のデフォルト言語(組織関連インポートにおける未指定時)
等で利用されます。



4.3.　ログアウト文言の設定

ログアウト文言の設定は各ログイン認証設定から行います。
管理サイト【サイト管理】⇒【サイト共通設定】ワークベンチ⇒【認証・セキュリティ-ログイン認証】から、設定するログイン認証を編集して、[画面遷移]タブで言語毎に文言を設定します。

▼管理サイト【サイト管理】⇒【サイト共通設定】ワークベンチ⇒【認証・セキュリティ-ログイン認証】



4.4.　メール文字コード設定

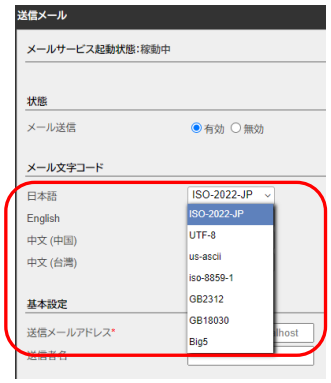
AgileWorks では承認依頼、差戻し依頼等の通知メッセージをメールで送信することができます。
この通知メール送信時の文字コードは、管理サイト【サイト管理】⇒【サイト共通設定】ワークベンチ⇒【メール-メール設定】から各言語毎に設定します。

利用できる文字コード

No.	文字コード
1	UTF-8
2	ISO-2022-JP
3	us-ascii
4	ISO-8859-1
5	GB2312
6	GB18030
7	Big5

通知メールの文字コードは、「通知メールを受領するユーザーの言語設定」に依存します。
従って、自身の言語設定が
　・日本語のユーザーに送信する場合は、日本語用に設定した文字コード
　・英語のユーザーに送信する場合は、英語用に設定した文字コード
　・中文（簡体字）のユーザーに送信する場合は、中文（簡体字）用に設定した文字コード
　・中文（繁体字）のユーザーに送信する場合は、中文（繁体字）用に設定した文字コード
が自動的に選択されます。

▼管理サイト【サイト管理】⇒【サイト共通設定】ワークベンチ⇒【メール-メール設定】



言語毎に利用する文字コードを
設定します。

4.5. メールテンプレート設定

通知メールの文面を、言語種類ごとに変更します。

▼ [サイト管理]-[サイト共通設定]-[メール]-[メールテンプレート]

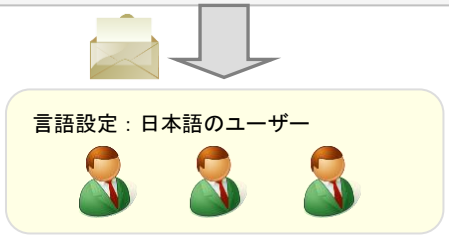


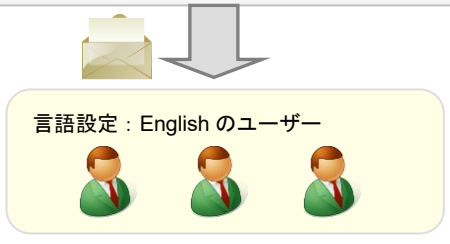
日本語のメールテンプレート設定（例）

承認依頼通知
${RcptUserName}様 書類の承認依頼が届きました。 [フォーム] ${DocFormName}（${DocFormCode}） [書類 ID] ${DocId} [申請] ${AppliUserName} (${AppliDate}) [件名 1] ${DocListName1} 下記 URL から書類を確認してください http://agileworks.atled.jp/AgileWorks/Broker/Picus

英語のメールテンプレート設定（例）

Approval Request
${RcptUserName} You received Request approval of the document. [Form] ${DocFormName}（${DocFormCode}） [DocId] ${DocId} [Applicant] ${AppliUserName} (${AppliDate}) [Title1] ${DocListName1} Please check the document from the following URL. http://agileworks.atled.jp/AgileWorks/Broker/Picus





4.6. 共通一覧ビュー設定

共通ビューの「見出し」「幅」を言語ごとに設定します。

▼ [サイト管理]-[サイト共通設定]-[書類・ワークフロー]-[共通一覧ビュー]



▼ ユーザーサイトのイメージ（English）



4.7.　件名設定

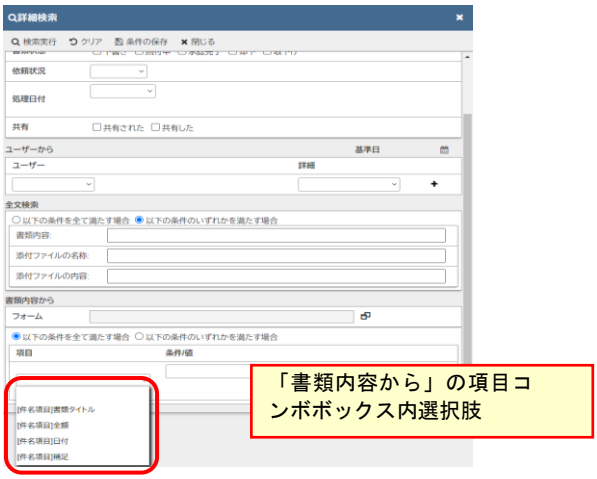
フォームの件名名称を言語ごとに設定します。

▼ [サイト管理]-[サイト共通設定]-[書類・ワークフロー]-[共通一覧ビュー]

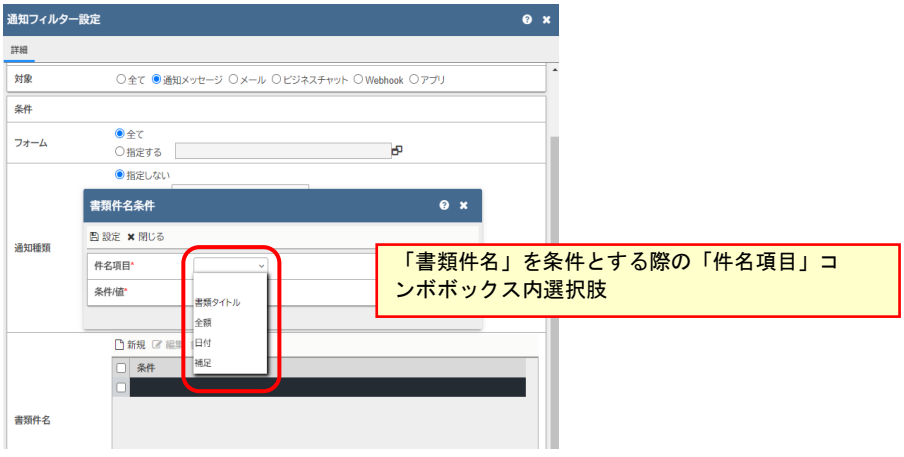


件名の名称は、以下の箇所で利用されます。

▼ [検索] – [詳細検索]画面



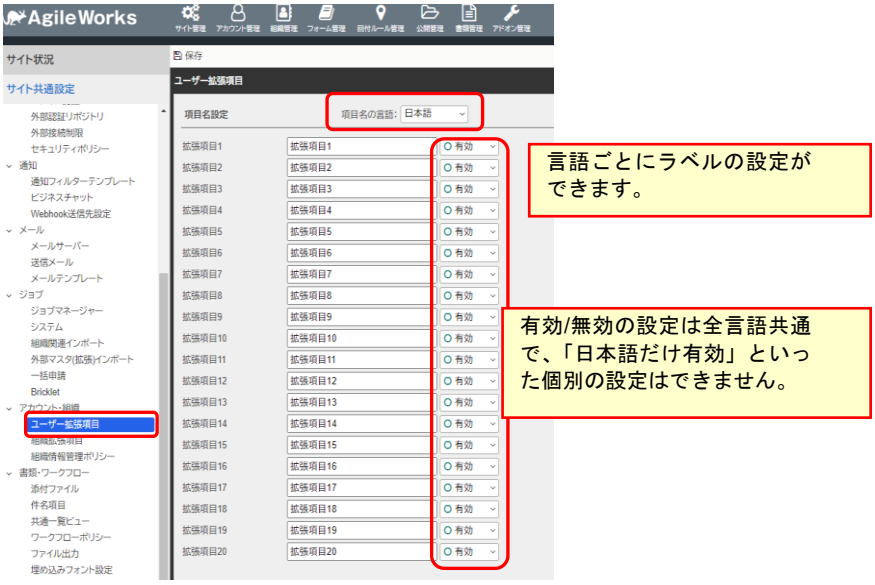
▼ [通知フィルター] 設定画面



4.8.　拡張項目設定

ユーザー/組織の拡張項目ラベルを言語ごとに設定します。

▼ [サイト管理]-[サイト共通設定]-[アカウント・組織]-[ユーザー拡張項目/組織拡張項目]



拡張項目のラベルは、ユーザー/組織の各検索画面で利用されます。

▼ ユーザー参照画面





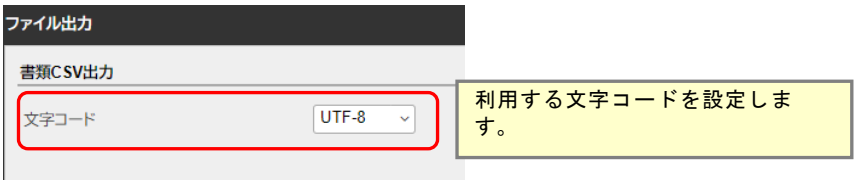
4.9.　CSV 文字コード設定

書類ビューから CSV を出力する際の文字コードを設定します。
当設定はシステム全体で統一の設定となり、フォーム毎/書類ビュー毎に別々に設定することはできません。

利用できる文字コード

No.	文字コード
1	UTF-8
2	Shift-JIS

▼管理サイト【サイト管理】⇒【サイト共通設定】ワークベンチ⇒【書類・ワークフロー-ファイル出力】



4.10. コンテンツ設定

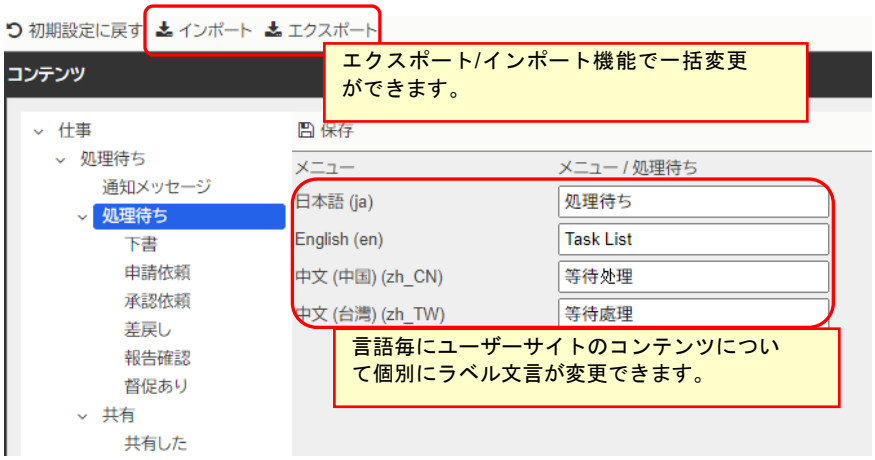
ユーザーサイトの各コンテンツのラベル（仕事/書類作成/検索のメニュー、処理待ち/処理済みの文言、等）を変更します。
管理サイト画面からの直接変更、またはエクスポート/インポート機能を利用した一括変更が可能です。

インポートに利用するファイルでは、エクスポートしたファイルの形式/構成をそのまま利用します。
また、変更には UTF-8 対応のテキストエディタを利用し、保存ファイルの文字コードが UTF-8 から変更されないように注意します。

■インポートに利用するファイル構成例（日本語、英語、中文-簡体字、中文-繁体字の場合）

aw-langpack-all.zip
　|_aw-content-ja.zip（日本語）
　　|_dictionary.lang・・・このファイルでラベル文言を変更
　|_aw-content-en.zip（英語）
　　|_dictionary.lang・・・このファイルでラベル文言を変更
　|_aw-content-zh_CN.zip（中文-簡体字）
　　|_dictionary.lang・・・このファイルでラベル文言を変更
　|_aw-content-zh_TW.zip（中文-繁体字）
　　|_dictionary.lang・・・このファイルでラベル文言を変更

▼ [サイト管理]-[サイト共通設定]-[システム]-[コンテンツ]

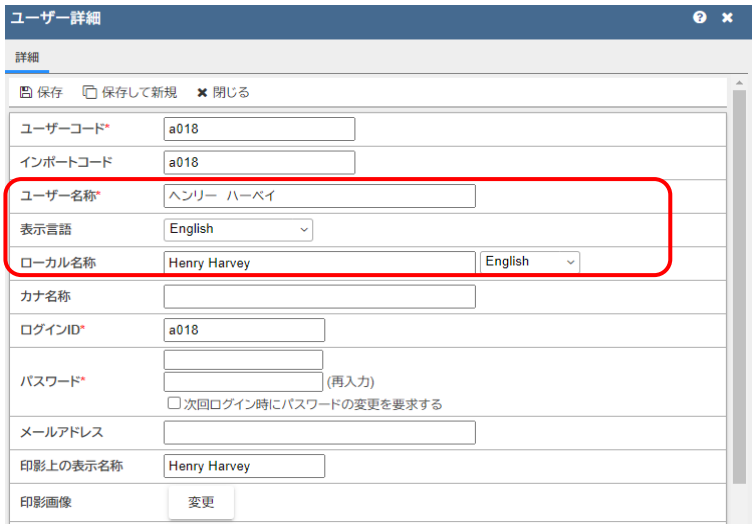


4.11. マスタ上の名称に関する設定

ユーザー、組織の「名称」設定は、各ユーザーの利用言語設定に依存しないグローバルな名称（基準言語での名称）に加えて、各ユーザーの言語設定により切り替わる「ローカル名称」が設定できます。

ユーザー名称の設定

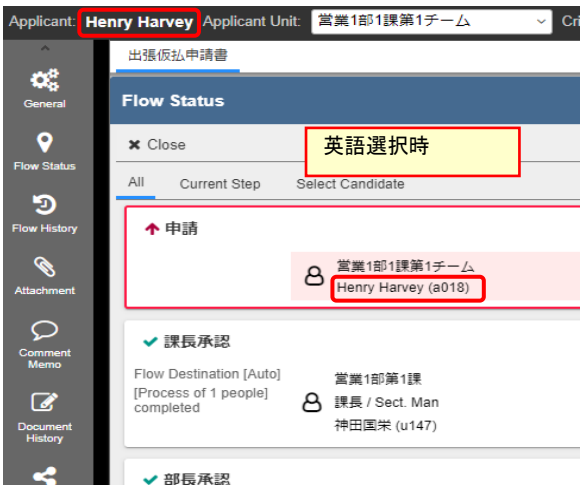
▼ 管理サイト[アカウント管理] – [ユーザー詳細]



上の例では、
・グローバルなユーザー名称に日本語で設定
・該当ユーザーが英語(English)利用なので、「ローカル名称」に英語で設定
となっています。

この場合、ユーザーサイトの「回付状況」「回付履歴」画面等に表示されるユーザーの名称表示には、
・表示言語を英語で表示させているユーザーは、「Henry Harvey」と表示され、
・表示言語を英語以外で表示させているユーザーは、「ヘンリーハーベイ」と表示されます。



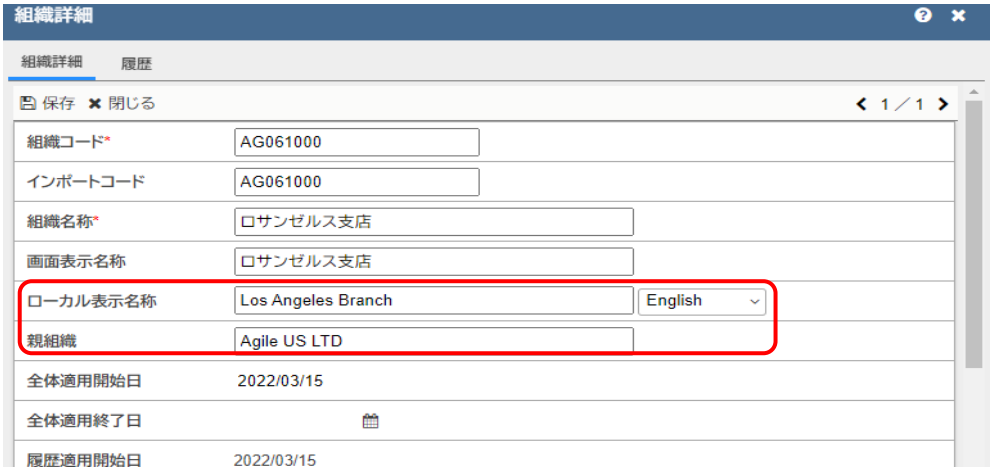


印影画像について
英語圏で利用するケース等で、サインを利用したいシーンでは、標準の印影ではなく印影画像の機能を利用します。
各ユーザー毎に任意の画像を印影として利用できます。
詳細は「Aw05-フォーム設計・作成.pdf」の「印影フィールド作成」章を参照

注意事項
ユーザー・組織の名称を変更した場合、作成済みの過去書類における各画面（回付状況、回付履歴、等）には反映されません。
書類を作成した時点での名称が表示されます。

組織表示名称の設定

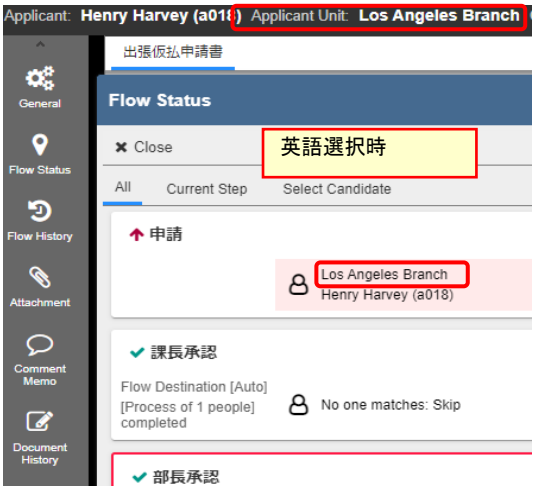
▼ 管理サイト[組織管理] – [組織詳細]



上の例では、
・グローバルな組織表示名称を日本語で設定
・該当組織が英語(English)圏での利用なので、「ローカル名称」に英語で設定
のイメージとなっています。

この場合、ユーザーサイトの「回付状況」「回付履歴」画面等に表示されるこの組織の名称表示には、
・ユーザーサイトを英語設定で利用するユーザーには、「Los Angeles Branch」と表示され、
・ユーザーサイトを英語以外の設定で利用するユーザーは、「ロサンゼルス支店」と表示されます。



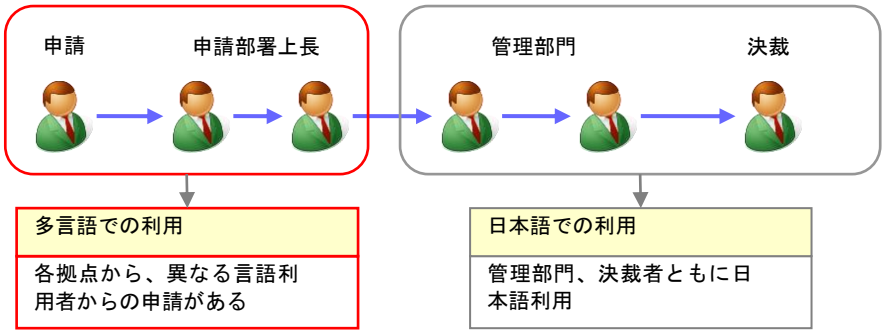


5. ワークフロー設定のポイント

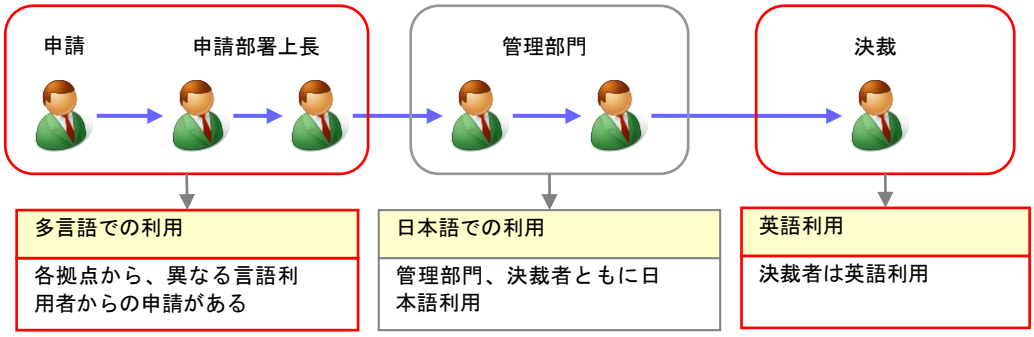
5.1. ワークフロー上、異なる言語の利用者が混在する

異なる言語を利用するユーザーがワークフロー上に混在するケースにおける設定のポイントや注意事項について説明します。設定のポイントを説明する前に、該当するワークフロー例をいくつか示します。

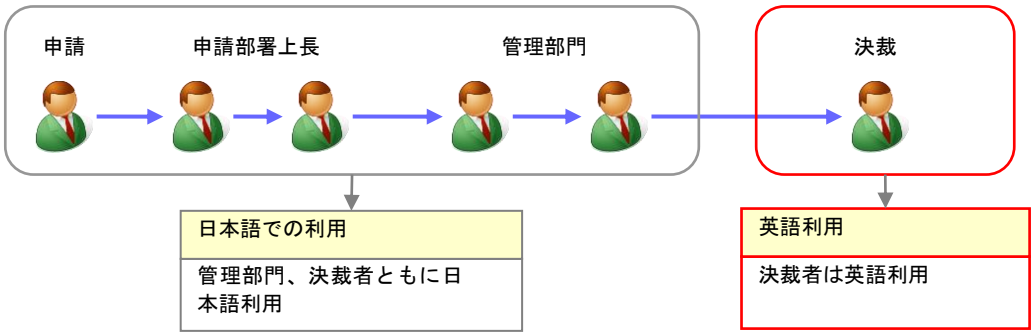
■ パターン A
各国の拠点から申請があるが、管理部門・決裁承認は日本語利用の場合



■ パターン B
各国の拠点から申請があり、管理部門は日本語、最終決裁は英語利用の場合



■ パターン C
申請部署、管理部門は日本語、最終決裁は英語利用の場合

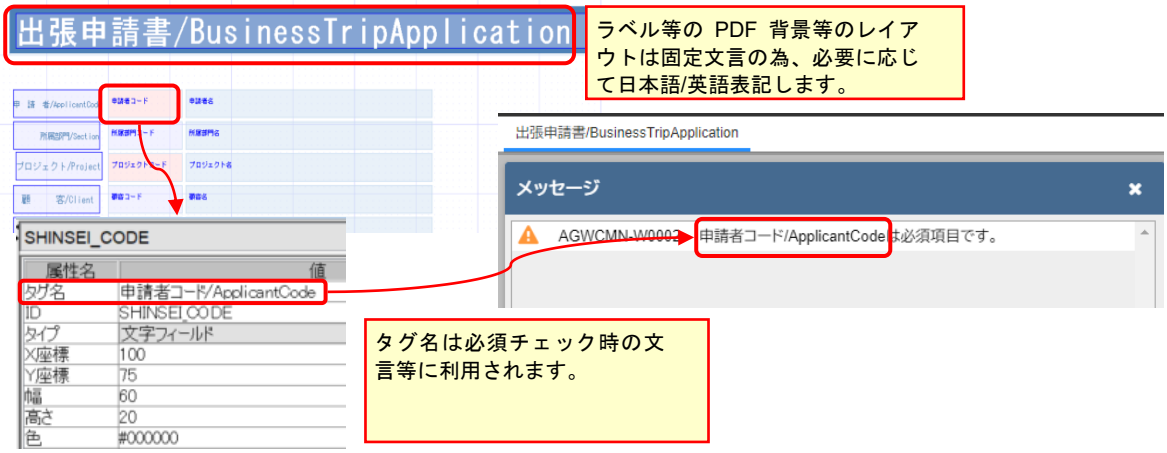


フォームの設定

■ フォーム名称の設定
利用する言語全てにおける名称を表記するか、ある言語の表記に統一します。

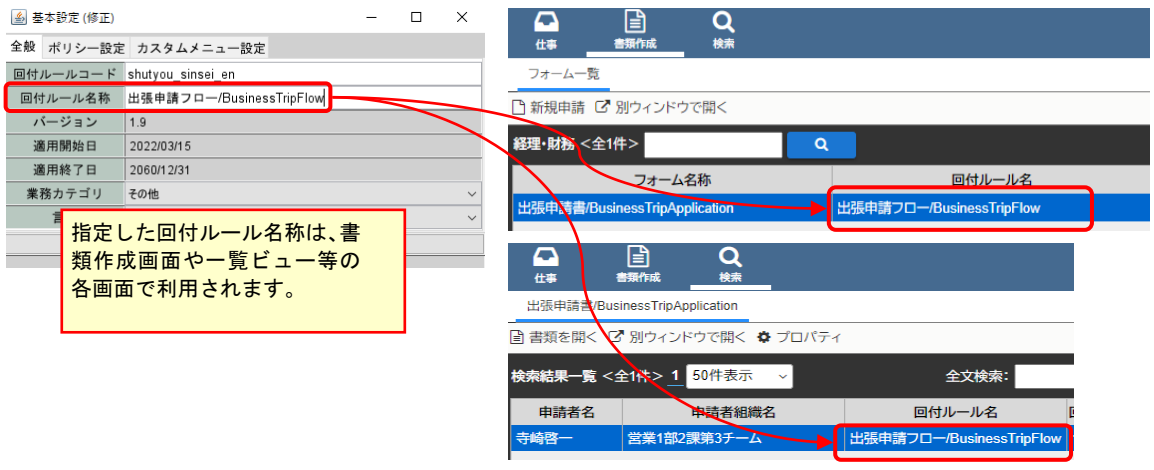


■ フォーム上の文字ラベル・レイアウト及びフィールドのタグ名
利用する言語全てにおける名称を表記するか、ある言語の表記に統一します。

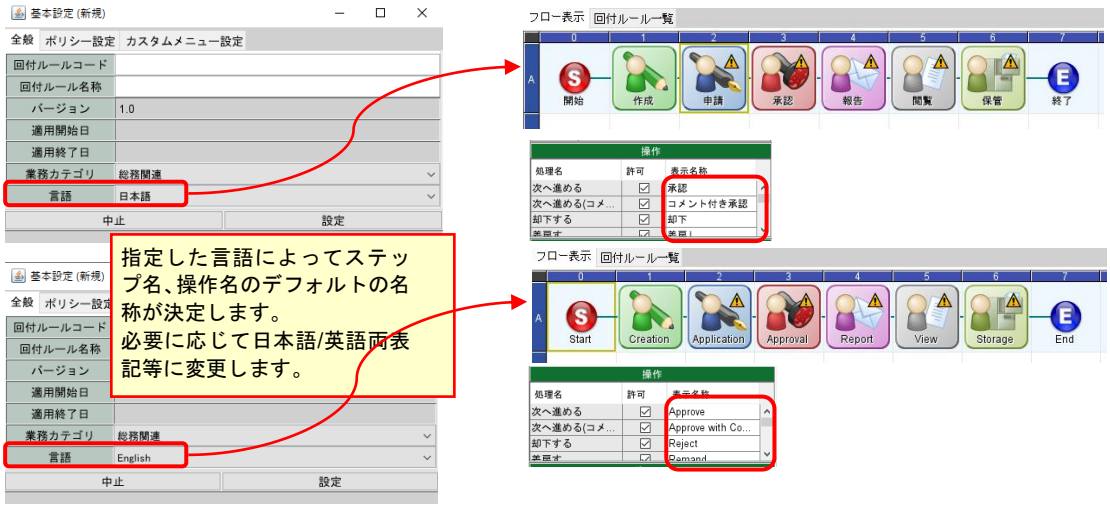


回付ルールの設定

■ 回付ルール名称
利用する言語全てにおける名称を表記するか、ある言語の表記に統一します。

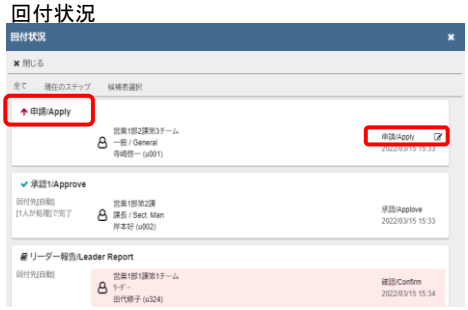


■ 日本語以外を利用するステップの「ステップ名」「操作名」
「ステップ名」「操作名」などは、利用する言語全てにおける名称を表記するか、ある言語の表記に統一します。
回付ルールの基本設定で選択した言語に応じてデフォルトの名称が決定しますので、必要に応じて変更します。



■ 日本語のみ利用するステップの「ステップ名」「操作名」
対象ステップの操作ユーザーだけを考慮すると、日本語表記だけでも構いませんが、「回付状況」「回付履歴」画面や証跡 PDF に表示される文言を意識する場合は、利用する言語全てにおける名称を表記とするか、ある言語に統一します。

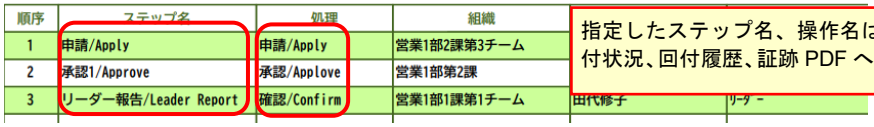
回付状況



回付履歴



証跡 PDF



指定したステップ名、操作名は、それぞれ回付状況、回付履歴、証跡 PDF へ反映されます。

公開フォルダの設定

利用する言語全てにおける名称を表記するか、ある言語の表記に統一します。



6. 注意事項

6.1. 各サーバーのシステムロケールとタイムゾーン

Linux OSの場合

現在設定されているシステムロケールを確認するには、

```
# locale
```

コマンドを実行します。

アプリケーションサーバー、データベースサーバー、ジョブマネージャ、メールサービス、ASB を起動する OS 上のユーザーの環境変数「LANG」設定が” ja_JP.UTF-8”でない場合は、環境変数を以下のように設定した上で各種サービスを起動します。

```
LANG=ja_JP.UTF-8
```

現在設定されているタイムゾーンを確認するには、

```
# date
```

コマンドを実行します。

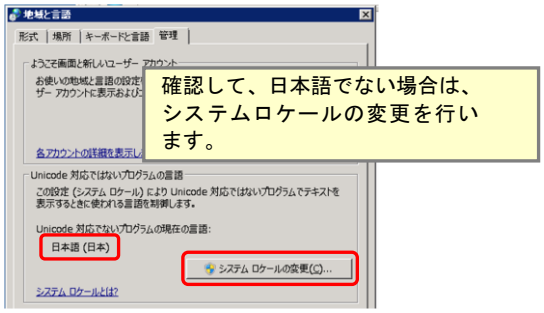
タイムゾーンが“JST”で無い場合は、/etc/localtime のタイムゾーン設定を Asia/Tokyo に変更した上で各種サービスを起動します。

```
# mv /etc/localtime /etc/localtime.org
# ln -s /usr/share/zoneinfo/Asia/Tokyo /etc/localtime
```

Windows OSの場合

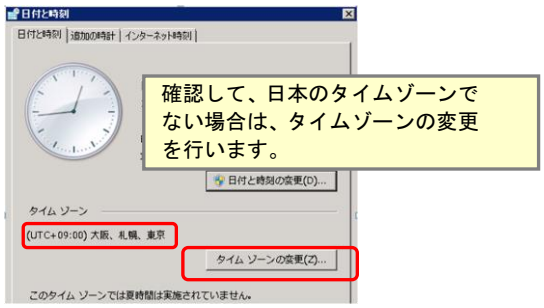
現在設定されているシステムロケールの確認と変更は、[コントロールパネル]の[表示言語の変更]から行います。

▼Windows Server 2008 R2 での例



現在設定されているタイムゾーンの確認と変更は、[コントロールパネル]の[日付と時刻の設定]から行います。

▼Windows Server 2008 R2 での例



注意事項
日本以外のタイムゾーンを設定した運用は、動作保証対象外となります。

6.2. フォントの問題

クライアント端末側に、表示する言語（文字）のフォントセットがインストールされていない場合、Web ブラウザなどで該当の文字を正常に表示することができません。
これは AgileWorks に限らず、全てのシステムで起こりうる事象です。

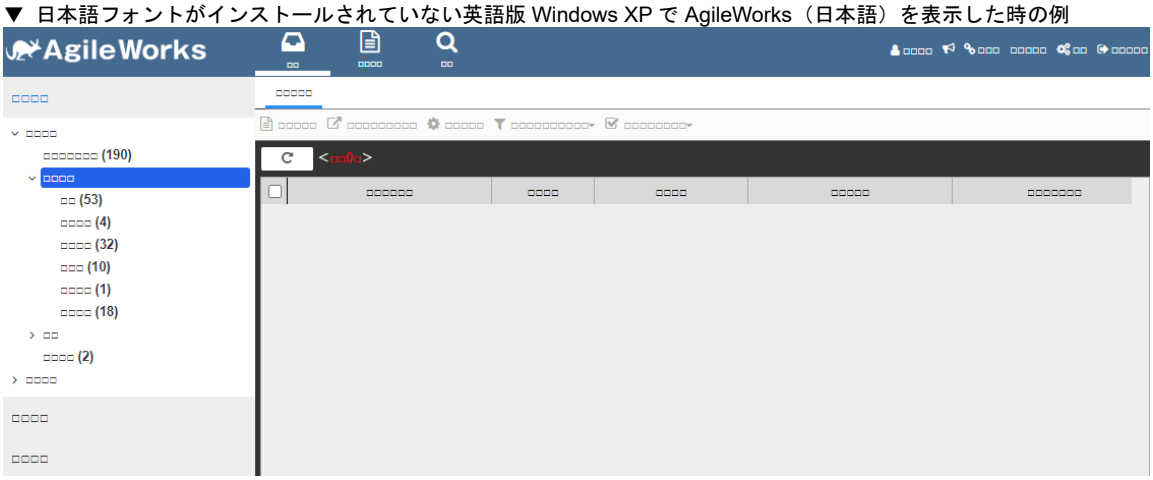
例えば、日本語フォントがインストールされていない OS の Web ブラウザに日本語を表示すると、日本語部分は文字化け、または何も表示されない状況になります。
また、書類を PDF 化した場合には、OS 側にフォントがインストールされていたとしても、PDF ビューア側（Adobe Reader 等）に日本語フォントがインストールされていないと、日本語部分が何も表示されない、または表示時に PDF ビューア側でエラーや警告メッセージが表示される場合があります。

本章では、Web ブラウザと PDF に多言語フォントを表示させる方法について説明します。

Webブラウザ上にマルチバイト文字が表示されない

Web ブラウザ上で AgileWorks を表示した際に、日本語（または他の言語）部分が表示されない場合は、OS に該当言語のフォントセットがインストールされていません。

▼ 日本語フォントがインストールされていない英語版 Windows XP で AgileWorks（日本語）を表示した時の例



特に、多言語ユーザー間でワークフローがまたがるケースでは、日本語で入力した申請書を、日本以外のユーザーや、日本語 OS 以外の PC で日本語フォントを表示するケースが生じます。
このようなケースで日本語を表示するには、利用する OS に日本語フォントをインストールする必要があります。

クライアント端末	説明
Windows Vista Windows 7	Windows Vista, Windows 7 はエディションにより英語版 OS でも日本語フォントがプリインストールされていますが、日本語フォントが表示されない場合は、利用する OS のサポートサイトやマニュアルを確認して日本語フォントをインストールしてください。

PDFにマルチバイト文字が表示されない

AgileWorks では書類上に入力した内容をそのまま PDF 化できる機能がありますが、PDF 表示時は PDF 内にフォントを埋め込んでいない限り、PDF ビューア側に対象フォントがインストールされていなければ、代替フォントが適用されるか、文字が表示できない状態となります。
（Web ブラウザと異なり、OS 側ではなく、アプリケーション側にフォントをインストールしておく必要があります。）

▼ Web ブラウザ上での表示
コピー＆ペーストなどをすれば、日本語 XP 端末でも表示できている中国語文字も。

経緯	
業務内容	在支持海外市场的同时，统计海外市场和生活的互动性也是重要的对



▼ PDF での表示

経緯	
業務内容	在支持海外市　的同　，　　海外市　和生活的互　性也是重要的

PDF ビューア側で持っていないフォントは何も表示されない。

端末によって、PDF にマルチバイト文字が表示されない問題を解決するには大きく 2 つの方法があります。

＜解決方法＞

方法	説明
方法 1 対象端末の PDF ビューアに、表示対象フォントをインストールする。	具体的な手順は、当マニュアルで説明しませんので、ご利用の PDF ビューア製品のマニュアル・説明サイト等を確認してください。
方法 2 埋め込みフォントを利用する	後章「フォームへのフォント追加と埋め込み」を参照してください。

フォームへのフォント追加と埋め込み

AgileWorks R2.2 から、フォームへのフォント追加と、埋め込みフォント機能をサポートしています。
埋め込みフォントを利用することで、以下の利点があります。

- **フォーム上でゴシック、明朝などの日本語フォント以外を利用できる**
  例えば、韓国語やタイ語などのフォームを作成するケース。但し、サポート「前提条件-対応言語」していない言語は、あくまでフォーム上の表示のみに利用できるという利点となります。

- **PDF 表示時のフォント置き換えを防ぐ**
  PDF に含まれるフォントが、表示するクライアント端末に存在しない場合、PDF ビューアでは PDF を表示する際に、別のフォントに置き換えて表示します。 フォントの置き換えでは、元の文字の形状がそのまま保たれるわけではないので、クライアント端末により文字の見え方が異なる場合が生じます。

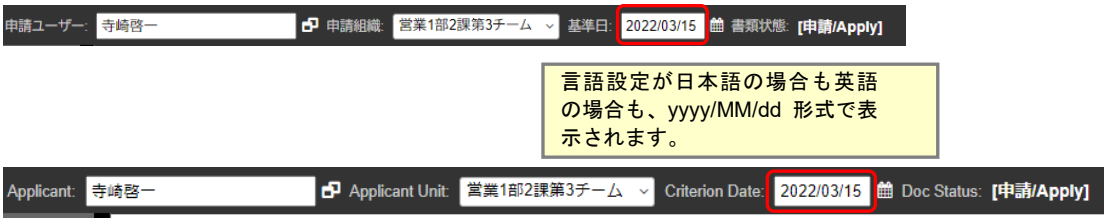
- **PDF 表示時の文字化けを防ぐ**
  例えば、日本語テキストが含まれる PDF を日本語以外の環境で表示する場合、環境によっては文字化けが発生する可能性があります。PDF にフォントを埋め込んでおくと、クライアント端末に同じフォントがインストールされていなくても、PDF 作成時のフォント（フォーム作成者が意図したフォント）のまま表示されます。

具体的な設定手順については、別紙「Aw10-埋め込みフォント利用ガイド.pdf」を参照してください。

> ⚠ **注意事項**
> フォントによってはライセンス条件を持つものがあり、その場合 PDF ファイルへの埋め込みが制限される場合があります。ライセンスに関する正確な情報は、各フォントの提供元にお問い合わせください。

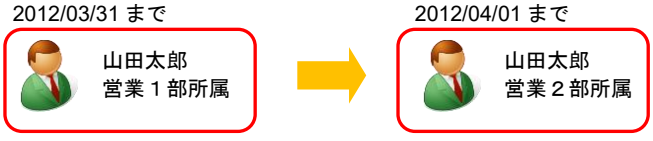
6.3. 日付書式・タイムゾーン

画面上で表示される日付書式は、原則、yyyy/MM/dd 形式での表記です。



また、日時は日本時間（サーバー時間）で表示され、適用日は日本時間の 0:00 で切り替わるため、時差が生じます。
その為、海外拠点で利用する場合は、時差を意識する必要があります。

▼2012/04/01 から営業 1 部所属の山田太郎が、営業 2 部に異動する





ロサンゼルスにおける
日本との時差：-17 時間

■サンプルケース
山田太郎は 2012/03/31 から出張でロサンゼルス支店にて業務を行っている。
2012/03/15 に利用した交通費の申請を行っていなかった山田は、2012/03/31 の am09:00 に申請を行ったが、急いでいた為「申請部署」「基準日」をしっかり確認しなかった。

後日、営業 2 部の佐藤課長より、2012/03 分の申請は、営業 1 部の田中課長に承認をもらうよう差し戻された。

ロサンゼルス：2012/03/31 am09:00＝日本：2012/04/01 am02:00 で人事異動が実施された後の為、「申請部署」が営業 2 部・「基準日」が 2012/04/01 で申請されていた為に問題が発生した

6.4. JavaScript 開発

フォームに JavaScript を組み込む場合、alert 文等の固有で表示する文言は、言語設定に応じて自動的に切り替わらない為、必要に応じて言語毎に用意します。
ログインしている（操作している）ユーザーの言語設定は、WorkflowInfo. getLoginAccount で取得した LoginAccount 情報で確認できます。

▼JavaScript 実装例

```
var userLocale = WorkflowInfo.getLoginAccount().getLocaleName();
if(userLocale==’ja’){
      alert(’日本語’);
}else if(userLocale==’en’){
      alert(’English’);
}
```

JavaScript を外部ファイルで用意する場合、文字コードは UTF-8 にします。
AgileWorks 側 HTML ファイルの文字コードが UTF-8 である為、JavaScript 内で全角を含む記述が存在すると文字化け等の原因となります。
ファイル文字コードの変更はテキストエディタ等を利用してください。

また、alert や confirm 等で表示されるダイアログのタイトルやメッセージは、ブラウザおよび OS 言語に依存する為、AgileWorks（JavaScript）側で指定することはできません。

6.5. SDK によるアドオン開発

AgileWorks SDK を利用して Bricklet によるアドオン開発を行う場合、ブラウザ側に変えるエラーメッセージ等の固有で表示する文言は、言語設定に応じて自動的に切り替わらない為、必要に応じて言語毎に用意します。
ログインしている（操作している）ユーザーの言語設定は、AccountService.getLoginAccount で取得した LoginAccountModel 情報で確認できます。

▼Bricklet 実装例

```
String userLocale = accountService.getLoginAccount().getLoginAccount().getLocaleName();
if(userLocale.equals(”ja”)){
      response.getResultStatus().setText(”日本語　エラー”);
}else if(userLocale.equals(”en”)){
      response.getResultStatus().setText(”English Error”);
}
```